



Out of the
CLASSROOM
から
学業

Into the
WORKPLACE
職業
へ

SIZE 1/50

関連企画
シンポジウム

日時：2016年6月25日(土) 13:30-16:30

会場：京都工芸繊維大学総合研究棟 4階 404

基調講演：森仁史(柳宗理記念デザイン研究所シニアディレクター)

講演：佐藤敬二(京都精華大学ギャラリーフール教授)

松尾芳樹(京都市立芸術大学芸術資料館)

岡達也(京都工芸繊維大学美術工芸資料館)

司会：並木誠士(京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長)

申込不要、入場無料

※詳細は当館ホームページをご覧ください。

京都高等工芸学校・
京都市立美術工芸学校の図案教育Ⅲ
2016年6月20日(月)～8月8日(月)

京都工芸繊維大学美術工芸資料館

開館時間 10時～17時(入館は16時30分まで)

休館日 日曜・祝日

入館料 一般200円、大学生150円、高校生以下無料

※ただし、京都・大学ミュージアム連携所属大学の学生は無料です。

お問合せ 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町

TEL 075-724-7924 <http://www.museum.kit.ac.jp/>



京都・大学ミュージアム連携
University Museum Association of Kyoto

主催：京都工芸繊維大学美術工芸資料館、京都市立芸術大学芸術資料館 共催：京都・大学ミュージアム連携参加校
「京都・大学ミュージアム連携が核となる文化発信事業の継続と展開」(平成28年度文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)

京都工芸繊維大学
美術工芸資料館
MUSEUM AND ARCHIVES

本展覧会は、2011 年度に京都市内の 13 大学 14 ミュージアムが連携して立ち上げた「京都・大学ミュージアム連携」の活動の一環として、京都工芸繊維大学美術工芸資料館と京都市立芸術大学芸術資料館の合同企画として開催するものです。

2014 年度「浅井忠・武田五一と神坂雪佳-京都高等工芸学校と京都市立美術工芸学校の図案教育Ⅰ-」、2015 年度「“做う”から“創る”へ-京都高等工芸学校と京都市立美術工芸学校の図案教育Ⅱ-」に続く連続展覧会企画の三回目で最終回。今回は、昭和前期(戦前期)を対象として、京都の図案教育とその成果の一側面を見ていきます。

京都では大正 14 年(1925)からラジオ放送が開始され、昭和 3 年(1928)には京都市営バスが出町と大正 12 年に完成した植物園間で運転を開始するなど、大正末期から昭和初期にかけて急速に都市化が進み、高島屋、大丸といったデパートが賑わいをみせていました。

高島屋では、これ以前から大阪心斎橋店に装飾係を設置(明治 33 年(1900))し、室内装飾の受注に力を入れていました。また、昭和 2 年には、丸紅商店京都支店内に染織美術研究会が設立され、公募による呉服の開発が開始されました。こうした企業での図案部の設置や公募の開催は、図案が商品開発の有効な手段として社会的に浸透していったことを示しています。

一方、教育現場では、昭和 5 年に京都高等工芸学校図案科教授であった本野精吾(1882-1944)の設計による新校舎が完成し、現在の京都工芸繊維大学がある松ヶ崎に移転しました。この当時の図案科は、本野をはじめとして、向井寛三郎(1889-1958)、霜島正三郎(1884-1982)らが指導をおこなっていました。京都市立美術工芸学校では、大正 14 年に神坂雪佳(1866-1942)と猪飼嘯谷(1881-1939)に代わって、山鹿清華(1885-1981)、田村春暁(生没年不明)が図案科の教員となっていました。それ以前から教諭を務めていた千熊章祿(1883-1965)は引き続き在籍していたものの、こちらでも同様に教員の世代交代があったこととなります。さらに大正 15 年には校舎を今熊野に移し、新校舎での教育を開始しており、およそ大正期から昭和初期にかけて両校で校舎の移転とあらたな体制での教育がスタートすることとなります。

明治 24 年に京都市美術学校に工芸図案科が新設されてから 30 年以上が経ち、京都高等工芸学校図案科も設立からおおよそ 20 年が経過し、卒業生の多くが教育の成果を実際の現場で職業として発揮すべく図案制作に携わっていました。学校における図案教育の成果が商品製作の現場でどのように活かされているかを、卒業生の作品やさまざまな業種でつくられた製品資料をもとに検証します。

また、本展の開催にあたりご協力賜りました京都丸紅株式会社さま、株式会社高島屋高島屋史料館さまに厚く御礼申し上げます。



a.



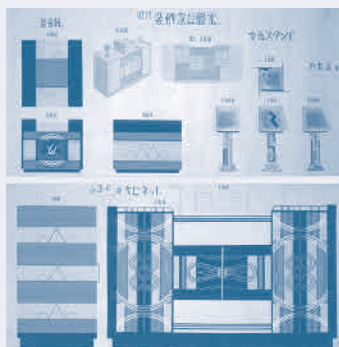
d.



b.



f.



e.



c.

a. 宇佐美滝三郎《夜会服図案》1934 年 / b. 市川頼宗《スキーは志賀高原へ》1940 年 / c. 熊谷秀雄《FOREIGN WINE CABINET DESIGN》1940 年 / d. 高島屋大阪店《榎原丸喫煙室》1911 年 / e. 杉本正《近代装飾家具図案》1939 年 / f. 向井寛三郎《叢(雁帰る)》1909 年 / g. 本野精吾《出雲丸 内観パース A 案》1939 年頃

a,c,e.: 京都市立芸術大学芸術資料館蔵 / b,g: 京都工芸繊維大学美術工芸資料館蔵 / d: 株式会社高島屋高島屋史料館蔵 / f: 京都丸紅株式会社蔵



g.

京都工芸繊維大学美術工芸資料館

606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町

Tel 075-724-7924

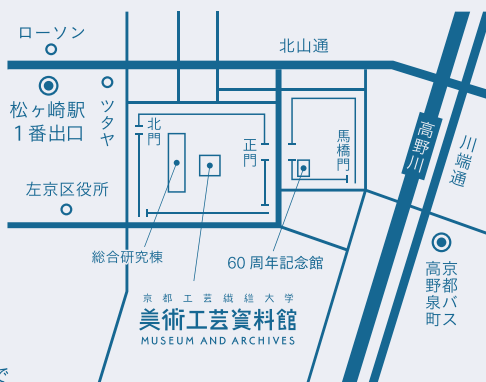
<http://www.museum.kit.ac.jp/>

Kyoto Institute of Technology,
Museum and Archives
Hashigami-cho, Matsugasaki, Sakyo-ku,
Kyoto, 6068585, Japan

同時開催中

「チェコのグラフィックデザイン
—ポスターとマッチラベルを中心に—」

2016 年 6 月 20 日(月) から 8 月 8 日(土) まで



●JR「京都」駅、市営地下鉄「烏丸御池」駅から市営地下鉄丸線「国際会館」行に乗車、「松ヶ崎」駅下車、徒歩約 8 分(「松ヶ崎」の「出口 1」から右(東)へ約 400m、4 つ目の信号を右(南)へ約 180m)

●京阪「出町柳」駅 5 番出口から京阪バス「大原」行、「岩倉実相院」行、「岩倉村松」行に乗車、「高野泉町」下車、橋を渡り左へ約 200m(徒歩約 8 分)
By Subways: Take the "Kokusai Kaikan" bound Karasuma Lines Subway to "Matsugasaki" Station, and walk east for about 8 min.